

石油商業協同組合と締結



協定書に調印後、固く握手を交わす浅井市長(右)と熊谷支部長

市は9月15日、岩手県石油商業協同組合一関支部(熊谷信子支部長)と災害時における応急対策用燃料の調達等に関する協定を締結しました。

協定は、市内で災害が発生したり災害が発生するおそれがある際に市が同支部に燃料などの調達および供給を要請した場合、同支部ができる限り市に協力をすると内容。災害時の緊急車両や避難所などへの燃料供給を想定したものです。

協定書に調印後、浅井市長は「当市は大雨のたびに洪水被害を受けてきたほか、宮城県沖地震が発生する確率も高まっている。このたびの協定締結は意義深く、大変心強い。今後とも市民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりを一層推進する」とあいさつ。熊谷支部長は「本組合は県内自治体と協定を結んでおり、一関市で22番目。ガソリン、灯油など地域に燃料の一部を供給する本組合にとって、地域に貢献できることは喜ばしい。万が一の時の確かつ迅速に機能できるように今後とも努めていく」と抱負を述べました。

市は大規模災害時の安全確保のため、姉妹都市や友好都市、岩手・宮城県際市町間など自治体間の相互応援協定をはじめ、医師会や建設業協会一関支部、大型物販店、水道工事業協同組合などと協力協定を締結し、安全安心のまちづくりに努めています。

3次募集で7事業を採択

地域おこし
地
お
事

■地域おこし第3次採択事業

区分	事業名	実施主体
一体感のある地域づくりを推進する		
☑	猿沢秋祭り	猿沢秋祭り実行委員会
☑	わが町探訪～栗ひろい・リンゴ狩りツアー～	花のまち交流協会
年代や職業などを問わず、多様な人材を育成する		
☑	高野長英顕彰事業	高野長英顕彰会
☑	いちのせきキッズ・プロジェクト～子どもたち(ドリームキッズ)と4人のジャズマンによるファンタジックコンサートVol. 2	いちのせきキッズ・プロジェクト・サポーター
活発な産業活動を促すことにより所得の向上を図り、心身ともに健康な生活を送ることができる環境を整える		
☑	米粉活用プロジェクト	農事組合法人おくたま農産
♀	「なっとく納豆」誕生物語	ぼっぼりなっとくの会
☑	いわて南牛ブランド日本一プロジェクト	いわて南牛Pro5

※事業名の☑は一般事業、☑は若者が主役事業、♀は女性が主役事業



プレゼンテーションの様

市が市民同士の活動と活力ある地域づくりを支援するため助成を行う「地域おこし事業」。7月31日から8月31日まで、3次募集を実施。8事業の応募があり、そのうち7事業を採択しました。

応募事業は、9月13日、大東コミュニティセンターで行われた公開プレゼンテーションで審査。市民5人と副市長、企画振興部長を審査員に、▼自発的で活性化の趣旨に沿うか▼将来的に市全域に波及する見込みがあるか▼人材育成、産業振興に寄与するものか▼交流人口の増加が見

込めるかーなどの観点から審査その結果▼地域おこし一般4事業▼女性が主役の地域おこし1事業▼若者が主役の地域おこし2事業の7事業を採択し、416万2千円を助成することに決定しました。審査員の一人、千葉鐵男さんは「どの団体も意欲的な発表で、一関市を活性化したいという気持ちのさらなる活躍を期待します」と振り返りました。本年度の地域おこし事業は、当初2次採択分と合わせて51事業、助成額2332万円となりました。

◎問い合わせ先
本庁協働推進課協働推進係
☎08671

敬老会

1万2千人の長寿祝福

21年度市敬老会は9月から11月にかけて、各地域・各地区ごとに催されています。招待者は昭和5年4月1日までに生まれた今年度満80歳以上になる人。9月1日現在で1万2688人(一関4982人、花泉1818人、大東2278人、千厩1436人、東山881人、室根767人、川崎526人)で、そのうち88歳の米寿は634人です。それぞれの会は、福祉活動推進協議会や自治会など、各地域・

地区の皆さんの企画による細やかな配慮と心のこもった運営により進められました。祝い品贈呈や「本日を元気で迎えられることに心からお慶びを申し上げます。豊富な人生経験を生きかします。ご健で活躍ください。ますますご活躍ください。浅井市長からのお祝い」などの祝賀ムードの中、出席者が高らかに乾杯。祝宴では、当祝者の皆さんが近況を報告し合ったり、地域の皆さん

による祝いの歌や踊りで健康長寿を祝いました。そのうち、9月12日ダイヤモンドパレスで行われた山目地区敬老会には、当祝者1214人のうち460人が出席。当祝者を代表して、佐々木勝信さん(85)「末広君が「長年培ってきた経験を生かし、社会貢献や地域活動に積極的にかかわっていく」と誓いました。毎日ランニングと体操を欠かさないといい佐々木さん。「あと5年は好きなゴルフを楽しみたい」と語っていました。

また、千厩町のマリアーヂュ会では、336人の当祝者のうち180人が出席。当祝者代表の千葉英一郎さん(80)「奥玉君が「皆さんにあまり迷惑をかけないように心がけ、愛される老人になりたい」とお礼を述べました。奥玉保育園児はヤッターマンの歌に合わせて踊りを披露。参加者は子どもたちの演技に目を細めて手をたたいたり、しばらくぶりの顔を見つけては懇談したりと、和やかに過ごしました。



真湯山荘で開催されている写真展

豊富な写真を中心に、地震発生から復旧までの経過を振り返る内容で、現場で工事に携わった関係者や行政機関職員のインタビューなども交えられています。9月12日、奥州市から家族と2人で訪れた男性は「以前よく温泉に入りに来ていました。まつるべ大橋の保存の新聞記事を見て、思い立って来ました。何度も渡った大きな橋があのようになるなんて本当に驚きましたね」とじつじつとパネルを見ながら、被害の大きさを振り返っていました。写真展目当て、温泉観光のついでなど、県内外から来場者が訪れています。会場で記入されたアンケートには、「会場まで来る途中の工事現場を目の当たりにし、工事関係者にけがのないことを祈る。早く温泉街道に戻ってほしい」「災害の大きさはテレビで見るとは大違い」「自然に生かされていることを思い知った」「写真展終了後もどこかに常設展示してほしい」など、さまざまな意見が寄せられています。



上 9月12日行われた山目地区敬老会で、浅井市長(左)から記念品を受け取る早川昭子さん
下 奥玉保育園児らのアトラクションに目を細める奥玉地区敬老会出席者

市と一関地区震災対策調整会議が主催する岩手・宮城内陸地震災害写真展は8月11日から10月29日まで、真湯山荘林業研修センター内で行われています。震災の被害状況と、現在までの復旧の様子を広く知らせることを目的に企画されたものです。展示は、▽林野庁岩手南部森林管理署▽国土交通省岩手河川国道事務所▽県南広域振興局一関総合支局農林部・土木部▽市農林部・建設部▽応用地質学会東北支部一の関係機関が実施。